

解題

小島田乙区有文書

【小島田村について】

小島田は現在の長野市小島田町にあたる地域である。

小島田の地名はすでに南北朝時代に確認される。近世は更級郡の一村で松代藩領となる。江戸時代の初めの村高は一五〇〇石程度、幕末には一九〇〇石余である。人口は一二〇〇人ほど。なお、江戸時代の初めの寛文年間に、小島田を上小島田と下小島田とに分けている。小島田乙区は下小島田を指している。

明治八年には上・下の小島田が一村として扱われ、明治二十二年の市制町村制の施行によって更級郡の自治体である小島田村となる。昭和三十年には更北村の一部となる。更北村は昭和四十一年に長野市と合併する。（『角川日本地名大辞典 長野県』 角川書店 一九〇〇年）

【伝来の経緯】

本文書群は、小島田乙区から寄託を受けた文書群である。区が所有するかたちで伝来してきた。

【文書群の特徴】

江戸時代の文書群は、主に幕末のものが多く見受けられる。村政に関わる文書が見られる。近代の文書については、小島田村の公共工事などの行政関係の資料が見られる。

資料群としてはボリュームはないが、村の概況が長い時間の中で見ることが出来る。